RCAST NEWS

Research Center for Advanced Science and Technology

117
2022

高野山会議の会場となった高野山金剛峯寺の壇上伽藍·根本大塔(だんじょうがらん·こんぽんだいとう)
右下写真は高野山会議で開会の挨拶をする神崎教授(撮影 照井壮平)

特集「駒場リサーチキャンパス公開 2022」

現地開催×オンライン!!
テーマはカーボンニュートラル
自治体マルシェにわくわく
3年ぶりの来場!

Relay Essay　先端とは何か　第37回

周縁から先端へ

当事者研究分野　綾屋 紗月 特任講師

輝け!未来の先端人

過去を知り、今を理解し、未来へ

岡島 悟 助教

東京大学 先端科学技術研究センター
Research Center for Advanced Science and Technology
The University of Tokyo

駒場リサーチキャンパス公開 2022

社会連携研究部門「再生可能燃料のグローバルネットワーク」と先端教育アウトリーチラボ共催のコンサートで水素燃料電池自動車について説明する杉山正和所長

現地開催 × オンライン!!

6月10日(金)、11(土)の両日、「東大駒場リサーチキャンパス公開2022」が開催され、2日間で約3000人の来場者を迎えました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年度は中止(「バーチャル先端研公開」を開催)、2021年度はオンラインのみでの開催でした。

今年は来場型とオンライン型のハイブリッド形式で実施。現地開催は消毒・検温を行い、飲食禁止、事前予約制導入など感染対策を徹底し、3年ぶりに直接来場者との交流を楽しみました。また、オンライン配信での企画も行われ、多くのアクセス数がありました。個性豊かな最新の研究成果に触れ、参加者には驚きと笑顔が広がっていました。

特設サイト(https://2022.komaba-oh.jp/)では、各研究室の概要やアーカイブ配信などがご覧いただけます。

水素燃料電池自動車MIRAI（本ページ上の写真）から給電した電子ピアノが使用された、中島さち子さんらによるコンサートは大盛況。美しい音色にうっとり

テーマはカーボンニュートラル

今年のオープニングセレモニーは「カーボンニュートラルの実現に向けて―大学からの提案―」。カーボンニュートラル社会を実現するためには、エネルギー供給の構成はもちろん、需要側も含めた社会構造を大きく変えていく必要があります。豊かで、安定した、環境にやさしい、安全な社会を将来にわたって発展させていくためには、これからどのような技術や制度の革新が必要なのか、そして人々の意識や行動にもどのような変容が求められるのか。生産技術研究所（生研）の岩船由美子特任教授が「カーボンニュートラル実現のためのエネルギー需要家の役割」、先端研の河野龍興教授が「カーボンニュートラルを実現する水素エネルギー ―次世代に向けた新たなエネルギー技術―」と題してそれぞれのカーボンニュートラルへの取り組みについて、講演を行いました。

生研の岡部徹所長、先端研の杉山正和所長の挨拶で始まったオープニングセレモニー。現地開催とオンライン配信で行われた

自治体マルシェにわくわく

6月11日（土）、３号館前では先端研が連携協定を締結している自治体の物産展「連携協定自治体マルシェ」が初めて開催されました。
地域とのネットワークを基調として取り組んでいる地域共創リビングラボの活動の一環として開催し、石川県、熊本県、和歌山県、いわき市（福島県）、軽井沢町（長野県）の５自治体が参加。大勢の来場者が各自治体のブースで特産品（お菓子・酒類・雑貨品など）の購入やブース店員との会話を楽しみました。さらに、今回のマルシェには自治体PR活動として、ゆるキャラが集合しました。熊本県のくまモン、軽井沢町のルイザちゃん、いわき市のフラおじさんが会場を大いに盛り上げてくれました。

いわき市のフラおじさん（左）と軽井沢町のルイザちゃん

NEW 自治体マルシェ開催

蕎麦やジャム、酒などご当地の特産品が並んだブース

せんたん研究員のくまモンが登場！
©2010 熊本県くまモン

地域共創リビングラボの活動に関する展示

ブース店員との会話も楽しみの一つ。商品を通じて「遊びに行ってみたい」との声も

マルシェ担当者より

連携協定自治体マルシェは、今年度が初めての試みであり、また、コロナ禍での開催でしたが、参加自治体をはじめ、皆様の多大なるご協力をいただき無事に開催することができました。感謝申し上げます。当日は多くの来場者やスタッフの方がマルシェに立ち寄ってくださり、賑わいのある楽しい空間の創出に貢献できたものと感じております。
（経営戦略企画室　産学官連携協力員 岡田 寛正）

● 東京大学で知的障害のある人は学べるのか？

LEARNプロジェクトなどについて話す中邑賢龍シニアリサーチフェロー

● RCAST STUDIO公開

先端アートデザイン分野の拠点である１号館のRCAST STUDIOを公開

● 【AccessReading】音声教材を活用した学びを知ろう！

教科書のデータである音声教材の機器展示や機能などを紹介（近藤武夫研究室）

● フォトニックナノ構造とトポロジカル波動工学

３年ぶりの現地開催で少し不安に感じていた部分もありましたが、ふたを開けてみれば客足が途絶えることなく説明に追われる充実した時間となりました。幅広い年齢層の方と直に色々お話しをさせて頂く機会も久々でしたので、やはりこのようなオンサイトイベントは貴重な機会であり、今後とも継続的に現地開催してほしいと思います。
（極小デバイス理工学分野　特任助教 林 文博(LIN Wenbo)）

● 体験して想像する身体の未来

ロボットと人間の身体を通じた融合などさまざまな体験ができた身体情報学分野（稲見・門内研究室）

● 昆虫がもつ驚異的な匂いセンサと脳のしくみをのぞいてみよう！

普段の実験で扱っているカイコガについて、実物をお見せしながら自分たちの研究と絡めてお話できる良い機会でした。養蚕をご存知の方は多かったものの、研究対象としてのカイコガはほとんど知られておらず、フェロモンを嗅ぎ取った際に動き回るカイコガの様子なども幅広い年齢の方に楽しんでいただくことができました。
（生命知能システム分野 神崎研究室 M2 内田 智也）

現地開催※

※ 人数制限を設けるなど新型コロナウイルスの感染対策を講じて実施

来年度のジャンプが楽しみ

今回は、３年振りの現地開催を含む初めてのハイブリッド開催となりました。感染状況が読めない中、関係スタッフの皆様のご尽力で様々なオペレーション設計がなされ、盛り上がりの中、無事終えることができたことにまず感謝申し上げます。各研究室の企画に加えて、地域共創リビングラボからの新しい取り組みである連携協定自治体マルシェは、ご当地キャラの集合もあって大変賑わい、私自身も楽しみました。産地のものを通じ、連携自治体への理解が深まったのではないでしょうか。また、多くの方にオリジナルTシャツを着ていただけて、チーム先端研としてまとまった姿を来場者に見せられたと思います。今回のハイブリッド開催をステップに来年度のジャンプが楽しみです。

駒場リサーチキャンパス公開 2022
キャンパス公開ワーキンググループ委員長　特任教授 檜山 敦

身体情報学セミナーで登壇する檜山先生（中央奥）。
せんたん研究員のくまモンとも3年ぶりの掛け合い。
©2010 熊本県くまモン

● 過去の気象情報で、安心・安全な暮らしと社会を実現する～日本の将来に向けた気象データの利活用～

気象のデータについて学び、安全・安心な社会づくりのための活用を考えるウェビナーも開催された

● コロナ禍 障害者がいまを語る

オンライン配信する福島智教授。映画「コロナ禍もうろうはいま」(西原孝至監督)も上映

● ROLES研究セミナー「沖縄返還の道のりをふり返る」

2022年は、サンフランシスコ平和条約発効から70年、沖縄返還から50年という節目にあたります。この節目を迎えるにあたって、今回、池内研・ROLESは、日本の独立回復後、最大の課題のひとつであった沖縄返還について検討する研究セミナーを実施しました。このセミナーを通じて、沖縄が「我々の問題」であると感じとる、ひとつのきっかけとなれば幸いです。
(グローバルセキュリティ・宗教分野 特任研究員 鍛治 一郎)

● 政治寄席2022　御厨 貴 × 牧原 出

キャンパス公開恒例の「政治寄席2022」では、ゲストに朝日新聞社でウェブ論壇誌「WEBRONZA」を立ち上げた吉田貴文氏、若手の気鋭の社会学者西田亮介氏、新型コロナの専門家を綿密に取材した河合香織氏をお招きして、御厨貴フェローと牧原とで現代政治を論じました。ウェブと紙媒体、アーカイブ、放送とSNS、さらには今後の新型コロナの状況や参議院選挙など、転換期の今を様々な角度から描き出す狙いです。縦横無尽に語り尽くせたのではと振り返ってみて感じています。
(政治行政システム分野　教授 牧原 出)

ワーキンググループの皆さま、ありがとうございました。最後はオンラインで一本締めの解散！

ポロシャツから Tシャツへ

これまでのポロシャツから一新、今年は先端研のロゴが大きく入ったTシャツを作成。一体感を醸し出しました。

×オンライン

各研究室から

社会包摂システム分野
特任助教 松清 あゆみ

社会包摂システム分野としては研究室公開と3つのイベントを開催しました。2日間のキャンパス公開で、研究室公開のブースにも非常に多くの方にお越しいただきました。これまでバリアフリーというものに触れていなかった中高生も数多くご来場いただき、支援機器等を体験していただける貴重な機会となりました。

インクルーシブデザインラボラトリー
特任助教 工藤 怜之

着任3年目にして初めて現地でのキャンパス公開に参加しました。並木研ではアクセシブルな実験設備等の開発に取り組んでいるため、実際に設備に触っていただく機会を得られてよかったです。そのような什器の普及が現実的に可能なのかと鋭い指摘をくれた中高生もいて、訪れてくださった方々の関心の高さに励まされました。

マシンインテリジェンス分野
講師 椋田 悠介

コロナ禍の中たくさんの方にお越しいただき、とても嬉しく思います。研究内容について様々な角度から議論、コメントをいただき、我々も大変有意義な時間を過ごすことができました。今後も研究室の持つ最新の人工知能技術について、広く紹介していきたいと考えています。

知能工学分野 矢入研究室
M1 高山 諒介

普段はあまり接点のない様々な人と交流することができ、それがとても印象に残っています。特に、同じ専門領域の学生と議論をしたり、他分野の研究者の方々の興味深い話を聞けたことは良い経験になりました。また、そういった話を通して矢入研究室の魅力が伝わっていると良いなと思います。

高野山会議2022を開催

6月30日より7月3日まで、高野山真言宗総本山金剛峯寺および高野山大学を舞台として開催された「高野山会議2022」は、大盛況のうちに幕を閉じました。高野山会議は、開創より1200年の歴史を持つ高野山の地において、東大先端研の研究展開を広く一般に紹介するとともに、科学技術×アートデザイン×宗教（哲学）の深い対話を通じてダイバーシティとインクルージョンの未来を形づくることを目的とした、ユニークな科学文化学術会議です。

先端研の神崎亮平教授による開会宣言、杉山正和所長の主催挨拶で幕を開けた開会式では、共催を代表して、高野山真言宗の今川泰伸宗務総長、和歌山県の仁坂吉伸知事、高野町の平野嘉也町長、高野山大学の添田隆昭学長より挨拶がありました。続いて金剛峯寺社会人権局の藤本善光局長が、「お大師様の寛容精神」と題してオープニング講話を行いました。

会議では、5つのメインセッションが展開されました。1つ目のテーマは「次世代育成」。人間性や倫理性ある未来をみすえ、次世代の子どもたちの育成について、科学技術・宗教・芸術の専門分野で活躍中のパネリストと議論を行いました。

2つ目のセッションは「インクルーシブデザイン」。バリアフリー当事者研究の専門家、インクルーシブアーツの専門家、そしてデザイナーのそれぞれの視点から、持続的なインクルーシブ社会の在り方について意見が交わされました。

3つ目は、「人間と宗教とテクノロジー」。密教学の専門家とデザイナーの対話に始まり、仏教の概念と芸術的表現、そして科学技術の実践の関係性について、ひろく議論が展開されました。

4つ目は、「気候変動・持続可能なエネルギー・社会システムとデザイン」。喫緊となっている気候変動やエネルギーの問題について、科学の専門家からの話題提供と共に、デザインの立場からの考え方と実践事例が紹介されました。

最後は高野山大学提供のセッションで、テーマは「仏教とは宗教か？」。文化人類学の専門家から、「宗教」とは何であるか、についての話題提供があり、仏教と宗教がイコールではない、という命題について議論されました。

また5つのメインセッションに加えて、先端アートデザイン社会連携研究部門に参画する11社の企業が中心となって特別セッションが開催されました。

これらのセッションと共に、高野山会議のもう一つの重要な柱が、音楽と芸術です。近藤薫特任教授のプロデュースにより、東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる演奏会が、高野山の様々な場所で展開されました。初日には高野山小学校訪問コンサート、2日目は金剛峯寺お台所での弦楽四重奏、3日目には高野山まちかどコンサートを行いました。そして最終日には、東京藝術大学の澤和樹名誉教授を特別ゲストとして迎え、高野山大学黎明館にてメインコンサートが披露されました。またデザイン面では、金剛峯寺内にて、先端研の伊藤節特任教授、伊藤志信特任准教授、吉本英樹特任准教授による特別展示が行われました。

さらに、高野山内外のエクスカーションプログラム、サプライズ演奏会も含んだ奥の院中之橋霊園のナイトツアーなど、多彩なアクティビティが展開された4日間の高野山会議は、最終日の閉会式で幕を閉じました。閉会式では「高野山宣言」が提言され、今後も1200年にわたり、この高野山会議を続けていくことが、改めて表明されました。

（先端アートデザイン分野　特任准教授 吉本 英樹）

▲金剛峯寺新別殿にて、開会式の挨拶をする神崎教授

▲閉会式にて高野山宣言を行う神崎教授

▲奥の院中之橋霊園ナイトツアーでの東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによるサプライズ演奏

▲左から伊藤節特任教授、伊藤志信特任准教授、神崎教授、近藤特任教授、吉本特任准教授

令和3年度工学系研究科先端学際工学専攻 春季学位記授与式を挙行

3月24日、令和３年度学位記授与式が挙行されました。先端学際工学専攻では７名が修了し、博士の学位が授与されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を行い、駒場Ⅱリサーチキャンパス13号館において対面で開催されました。
4月12日には、令和４年度大学院入学式が日本武道館において対面で挙行され、先端学際工学専攻には16名が入学しました。式典の様子はインターネットでも映像配信されました。

▲祝辞を述べる神崎所長（当時）

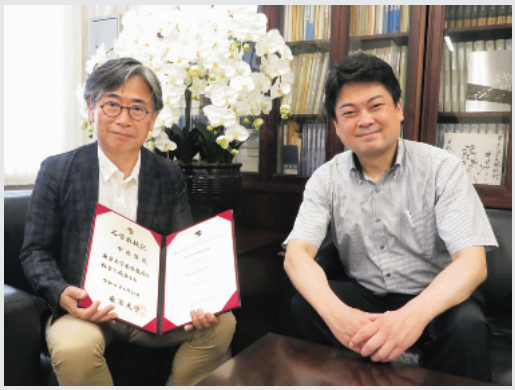
14号館屋上に低反射型太陽光パネルを設置

3月に14号館屋上へ出力60kWの太陽光発電設備を設置しました。これにより同館の電力需要を100%再エネ電力でまかない、完全なゼロエミッションを達成できます。更に、世界一反射率が低い防眩型の太陽光パネルを採用し、都市で問題となるパネル面の反射を抑えます。この設備はJSTのCOI-NEXT「地域気象データと先端学術による戦略的社会共創拠点：ClimCORE」に関わるものです。2022年度は蓄電池と制御システムを設置して試験運用を開始します。2023年度は太陽光発電・蓄電池・水素エネルギーの統合システムを完成させ、気象データを利用した予測・監視・制御技術も確立する計画です。2050年カーボンニュートラル達成と持続可能な社会システム実現のため、産官学連携による本システムの社会実装実現を目指します。
（水素エネルギー分野　特任研究員 名取 顕二）

▲14号館屋上の低反射型太陽光パネル

中邑賢龍シニアリサーチフェローが、名誉教授に

中邑賢龍シニアリサーチフェロー（「個別最適な学び研究」寄付研究部門）が、６月に「名誉教授」の称号を授与されました。名誉教授は、東京大学における功労が大であり、かつ、学術上又は教育上の功績が顕著である者に授与される称号です。
中邑名誉教授は2005年に先端研に人間支援工学分野を開設し、日本の学校における一斉指導の様々な問題点を解決するため、実験的な教育を通じて我が国における教育研究を牽引してきました。
2022年４月より「個別最適な学び研究」寄付研究部門を設置し、引き続き先端研の研究教育活動に参画されます。


▲名誉教授授与式での中邑名誉教授（左）と杉山所長（右）

信州大学社会基盤研究所および軽井沢町と軽井沢先端学術プラットフォームに関する覚書を締結

▲左から丸橋所長（信大基盤研）、杉山所長（東大先端研）、藤巻町長（軽井沢町）

６月７日、先端研と信州大学社会基盤研究所（以下、信大基盤研）、および軽井沢町は軽井沢先端学術プラットフォームに関する覚書を締結しました。軽井沢町役場で行われた調印式には、先端研の杉山正和所長、信大基盤研の丸橋昌太郎所長、軽井沢町の藤巻進町長が参加しました。また、先端研／信大基盤研の玉井克哉教授と先端研の河野龍興教授、軽井沢町の栁澤宏副町長と森憲之氏（総合政策課課長）が同席しました。

本協定は、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目指しています。

2017年より進められてきた軽井沢町と両大学による三者協定は、これまで、東京大学からは藤田敏郎先端研フェローらが参加し医療分野を中心に取り組んできました。

次のステージでは、医療に加えて、地域住民、大学、行政とともに地域を共創する先端学術プラットフォームを設置して、社会科学的な取り組みから地域住民の信頼を得ることも含め、教育や総合的なまちづくりに取り組んでいきます。

釜石市と連携および協力に関する協定を締結

▲左から菊池国際港湾産業課長、晴山副市長、野田市長、杉山所長、飯田特任准教授、岡田産学官連携協力員

７月31日、先端研は、地域のステークホルダーとともに地域の課題解決や持続可能なまちづくりに寄与することを目的に、釜石市(岩手県)と連携および協力に関する協定を締結しました。

締結式は釜石市役所で行われ、先端研から杉山所長、飯田特任准教授、岡田産学官連携協力員が出席しました。

先端研と釜石市とは、釜石市沖の海洋再生可能エネルギー実証フィールドとその周辺を活用した波力発電に係る取組みを通じ、これまで連携、協力関係を構築してきました。

今回の連携協定の締結により、産学官連携による共同研究や技術開発、人材育成、地域企業への助言･指導など、さらなる連携協力の拡大･展開を図っていきます。

（経営戦略企画室　産学官連携協力員 岡田 寛正）

RELAY ESSAY VOL. 37

先端とは何か

当事者研究分野　特任講師 綾屋 紗月

周縁から先端へ

周縁化されたマイノリティの多くは、経験を分かち合える同時代の仲間や先人とのつながりを得られずに孤立している。ひとつにそれは、空間と時間を超えて私たちをつなぐ言葉がマジョリティ向けにできているからだ。当事者研究はマイノリティの経験に言葉を生み出し、自分や仲間、そして先人とつながっていくいとなみとも言える。

周縁から先端へ—— 私が「先端にいる」と感じた瞬間はこれまでに2度ほどあるように思う。1度目は30歳を過ぎた頃、自閉スペクトラム症の診断を得た帰りの電車の中だった。それまでの私は、物心ついたときから続く、自分の身体感覚および自分の周囲で起きている現象の解釈のしづらさに苦労していた。自分のことも周囲の事物のことも「確かに在る」という実感を持ちづらい世界は混沌としており、私はなるべく予測可能で意味の分かる小さくて安全な日常を過ごしたいと望んでいた。しかしそんな私にとっては、人から見れば微細な変化やできごとであっても「想定とのズレ」や「周囲の人々とのズレ」が一大事となってしまう。そのため、「なぜこういうことが生じたのか」「なぜ私はこうなってしまったのか」と意味づけできないたくさんの経験が、その場その場で時間がストップしたままの写真を平面上にぶちまけたように、時間感覚を伴わない状態で私の中に保存されていった。さらにそうした数多くの記憶がランダムにしつこく思い出されてしまうことも、私の苦しみの１つだった。それがその日、自閉スペクトラム症というひとつの物語を得た際に、長年蓄積してきた数々の記憶が2歳、4歳、16歳、23歳…と時間軸に沿って私の背後に一直線上に並び、それらが私の背中から次々と流れ込んできた。その勢いで、前方には何もない最先端へと私の身体がドンッと後ろから押し出されたかのように感じたのである。

2度目はそれから約15年後、精神障害を抱えた人々の活動の中から生まれた「当事者研究」が誕生するまでの歴史をまとめる作業が一段落した頃だった。それまでの私は、自分個人の当事者研究や発達障害の仲間との当事者研究に取り組んでいたが、そうした日々の実践の中での奮闘の在り方が果たして正解なのかどうかを判断できず、どこか孤立感を味わっていた。しかし、当事者研究の誕生に影響を与えることになった活動を率いてきた難病患者、身体障害者、依存症者の先人たちや、当事者研究が誕生した当時を知る先輩や仲間たち、またそうした当事者の活動を支援してきた人たちに直接会って話を聞き、彼らの記録を整理したことで、場所や時間を越えた多くの仲間と先人たちに背後を支えられているような感覚と、さえぎるものがない正面から吹く向かい風に抗って彼らの尊厳を守らねばならない責任のようなものを感じるようになったのである。その結果、以前であれば人々の無理解な態度に直面した際に委縮し、孤立感と共に黙り込んでしまっていたような状況で、徐々に当事者としての意見を述べられるようになっていった。

周縁の地で混沌や奮闘の中にいた頃と同様、私の未来はあいかわらず不確実である。しかしかつてのように、前後不覚な不確実性の渦に巻き込まれて孤立しているわけではない。となりには同時代の仲間を、背後には過去の私と先ゆく仲間を感じながら、現在の私は目の前に広がる不確実性の荒野に踏み出そうとしている—— 私にとっての「先端」とはそのようなものかもしれない。

受賞者の声

令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞

原田達也教授（マシンインテリジェンス分野）が「科学技術賞（振興部門）」を共同受賞

情報・システム研究機構（NII）の佐藤真一教授、NIIの合田憲人教授、東海国立大学機構名古屋大学の森健策教授、東京大学の原田達也教授によるグループが「科学技術賞（科学技術振興部門）」を受賞しました。

受賞研究：医療ビッグデータクラウド基盤のAI自動診断研究への貢献

医療画像のAI解析のため、世界に類例を見ない医療ビッグデータクラウド基盤を構築し、それをAI自動診断研究へ迅速に応用した業績が評価されました。クラウド基盤は日本全国の学術機関を高速大容量で結ぶ専用ネットワークSINET5とVPN接続して構築しました。

【受賞コメント】筆頭者：佐藤真一 NII教授

このたびは、科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞）という大変名誉ある賞を頂き、光栄に存じます。医学系研究者とAI画像解析研究者との緊密な連携に基づき、医療ビッグデータクラウド基盤を構築し、医学的にもAI画像解析的にも顕著な成果が達成できたことをご評価いただきました。今回の受賞は、申すまでもなく多くの方々のご支援・ご協力なくしてはあり得なかったものであり、特に医学系学会、AI画像解析では大学他多くの機関からご協力を頂きました。関係されたすべての方々に心より感謝申し上げます。

▲原田教授

太田禎生准教授（ロボティック生命光学分野）が「若手科学者賞」を受賞

受賞研究：機械学習が駆動する高速画像情報識別型フローサイトメーター開発

細胞からの光学的計測信号を機械学習で直接判別する「画像を見ずに形を見る」ゴーストサイトメトリー法を考案し、AI駆動型高速画像情報識別セルソーターを世界に先駆けて開発しました。医療診断・創薬など様々な分野への展開性が高く、波及効果も期待できます。

【受賞コメント】

この度の選定は、本学・本所、ファンドエージェンシー、そしてアカデミック内外からご支援、ご指導くださる皆様のおかげであり、深く、心より感謝申し上げます。今後も研究室メンバーや共同研究者の皆様と新しい重要技術の研究開発に励み、社会貢献を目指します。

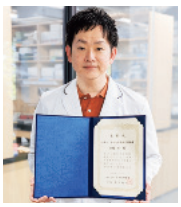
野口聡一特任教授（当事者研究分野）が第37回電気通信普及財団賞「テレコム学際研究賞」を受賞

受賞理由：「微小重力空間での定位：宇宙飛行士による当事者研究」が評価されました。

▲野口特任教授

安藝翔特任助教（ニュートリオミクス・腫瘍学分野）が入澤宏・彩記念若手研究奨励賞を受賞

受賞理由：「オルガネライメージング法を駆使し、ミトコンドリアダイナミクスを制御する機構を解明」が評価されました。



▲安藝特任助教

油谷浩幸シニアリサーチフェロー（ゲノムサイエンス&メディシン分野）が「科学技術賞（研究部門）」を共同受賞

東京大学の小室一成教授、油谷浩幸シニアリサーチフェロー、野村征太郎特任助教によるグループが令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞（研究部門）」を受賞しました。

受賞研究：1細胞解析による心不全の病態解明と精密医療に関する研究

本研究では、心臓組織から単離した個々の細胞に含まれる全てのRNA情報を読み取る1細胞RNA-seq解析技術を世界で初めて開発し、マウス病態モデルおよびヒト心不全患者の心臓に含まれるあらゆる細胞種の1細胞レベルの全遺伝子発現情報を取得しました。不全型心筋と代償型心筋の2種類に分岐することがわかり、均一と考えられてきた心筋細胞の不均一性を明らかにしました。

【受賞コメント】

今回の研究成果は心筋細胞のDNA損傷の度合いに基づいた心不全の層別化や治療法の開発に寄与するだけでなく、1細胞RNA解析で解明された心不全の病態に基づく精密医療の実現に寄与することが期待されます。動脈硬化に関する遺伝子多型に関する研究で博士号を取得しましたが、30数年経って1細胞のゲノム情報を用いてヒトの疾患のメカニズムを解明できるようになったことはまさに感無量です。今後もシニアリサーチフェローとしてがんや心疾患の精密医療の実現に向けて力を尽くしたいと思います。

▲油谷シニアリサーチフェロー

辻村真樹さん（理論化学分野石北研究室M2）が令和3年度「東京大学総長賞」を受賞

選出理由：生命活動の根源に分子化学から迫り、「実験に先駆けた理論研究」という枠組みを構築した研究成果は、国際誌に6報の学術論文が受理され、学会賞4件を受賞するなど、国内外で高く評価されました。

▲辻村さん

大津山堅介特任助教（共創まちづくり分野）が日本災害情報学会大会優秀発表賞を受賞

受賞理由：「マルチハザードの視点で見た住まいの復興と移住に関する実態調査：気仙沼市における質問紙調査を通じて」が評価されました。

▲大津山特任助教

中村尚教授（気候変動科学分野）が日本地球惑星科学連合フェロー（2022年度）に選出

選出理由：大気大循環系と大気海洋相互作用の理解、および気候変動の社会影響に関する知見の普及への顕著な貢献を評価されました。

▲中村教授

春日郁朗准教授（共創まちづくり分野）が2021年度日本水環境学会論文賞を受賞

受賞理由：水道水中には微生物が利用できる生分解性有機物が残留しており、その組成はブラックボックスとされてきましたが、高分解能質量分析計を活用し、生分解性有機物の組成を分子レベルで解明した研究が評価されました。

▲春日准教授

新任教職員紹介

東大の中では理学系物理学専攻、工学系物理工学専攻、新領域複雑理工専攻に続いて4つ目の部局として先端研でお世話になることになりました。高級住宅街の中にある駒場キャンパスは本郷、柏両キャンパスと全く雰囲気が違い、窓から見える富士山にも幸せな、落ち着いた気分にさせられます。最高の環境にふさわしい一流の成果が出せるように研究室一同頑張っていきたいと思います。

2022年4月1日付

計算物質科学分野
教授 有田 亮太郎

地球上に一番多く存在している元素で、皆様にも馴染み深い『水素』。この水素は国内で製造・利用できるエネルギー媒体で、エネルギーセキュリティの観点からも今後重要な役割を果たしてきます。また2050年カーボンニュートラルを実現するためには、再生可能エネルギーの大量導入と共に水素エネルギーの利活用も切望されています。当研究室では水素エネルギーに関する研究開発を推進するとともに、真の産官学連携を目指していきます。

2022年4月1日付

水素エネルギー分野
教授 河野 龍興

自然環境や社会環境、テクノロジー、人々の価値観が急速に変化する時代に、社会的な排除をなくし、包摂を目指す仕組みとその社会実装を志向する研究室を開きました。先端研と国内外の産学官民さまざまな人々と連携しながら、社会課題とその解決についてリアリティのある研究をおこなっていきたいと考えています。

2022年4月1日付

社会包摂システム分野
教授 近藤 武夫

地球環境の現在の姿は、気の遠くなるような時間スケールの中でのさまざまな物理・化学・生物過程の結果です。隕石や、地球深部由来の岩石・鉱物、火山ガス、温泉や地下水などの天然試料を構成する元素の同位体比から、太陽系や地球における過去や現在の出来事を紐解くことができます。先端研ではこれまで培ってきた質量分析技術をさらに究め、地球規模の課題解決に貢献する地球環境化学を展開したいと考えています。

2022年4月1日付

地球環境化学分野
教授 角野 浩史

工学系研究科化学システム工学専攻から着任いたしました。専門はライフサイクル工学です。化学プラントの経済的最適化から製品のライフサイクルシステム全体の持続可能性を目的とする設計・運用に関心が広がっています。企業価値や消費者行動の変容など社会システムを大きく変革するためには技術と社会制度の統合のように文理融合アプローチが必須であり、先端研はそれが実現できる場と期待しています。どうぞよろしくお願いいたします。

2022年4月1日付

ライフサイクル工学分野
教授 平尾 雅彦

生物多様性とは何なのか?どのように生物多様性は成り立っているのか?どうして生物多様性を守る必要があるのか?という問いに、まだ科学は答えることができていません。しかしながら、生物多様性は社会に必要な様々な自然の恩恵(生態系サービス)、ひいては地球環境の維持にとってかけがえのない役割を果たしています。生物多様性と生態系サービスについて理論的に関係性を解き明かし、社会に資する研究を展開していきたいと考えています。

2022年4月1日付

生物多様性・生態系サービス分野
教授 森 章

先端研の一員になれて光栄です。約40年間、政府の行政分野、特に、科学技術行政の分野で仕事をしてきました。20年前、文部科学省の課長時代に先端研と深く関わりをもつことができ、当時、仕事がとても楽しかった記憶があります。20年前の先端研と今の先端研では当然違いますが、今後とも、先端研の存在意義が高まるよう貢献できればと思います。宜しくお願いします。

2022年4月1日付

経営戦略分野
特任教授 土橋 久

環境工学の観点から、水道・下水道の生物学的水処理、水環境中の薬剤耐性細菌の動態に関する研究を進めています。様々な機能を有する多様な微生物が、我々の生活とどのように関わっているのかは十分に明らかにされていません。先端研では他分野の視点を積極的に取りこみ、ブラックボックスとされてきた微生物の世界を更に解明していきたいと考えています。

2022年4月1日付

共創まちづくり分野
准教授 春日 郁朗

このたび先端研代謝医学分野の准教授に着任いたしました。先端研に初めて着任してから2年間、心強い研究室のメンバーや共同研究者の方々と一緒に、エピゲノムを介した細胞運命決定機構の全容解明に取り組んでまいりました。今後も先端研の先輩方から斬新な発想や技術を学ばせていただきながら研究を力強く推進し、責務を全うしたいと存じます。

2022年4月1日付

代謝医学分野
准教授 米代 武司

再生可能な太陽光エネルギーを利用した資源生産を目指した基礎研究を主として行ってまいりました。多様な切り口から持続可能な社会の実現に向けて貢献できるように視野を広げてチャレンジしたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

2022年4月1日付

エネルギーシステム分野
特任准教授 熊谷 啓

国際政治における「経済安全保障」をキーワードに研究を行っています。国際環境の劇的な変化に加え、先端技術の多くが軍民両用の性質を持ち始めたことで、各国で「経済の安全保障化」が生じ、新たな課題が出始めています。経済制裁の在り方や人権・価値観と経済安保の関連性。食料安全保障を向上させ経済成長にも貢献しうる「細胞農業」を巡るルール形成。また対外国干渉政策など、これら学際的なトピックの研究・発信・教育活動を行う上で、先端研はこれ以上無い最適な環境だと感じています。

2022年6月1日付

ルール形成戦略分野
特任講師 井形 彬

ヒトは進化の過程で高度な免疫機構を獲得してきたと考えられてきましたが、最近になってヒトの持つ様々な免疫機構が細菌においても保存されていることがわかってきました。私はこれまでに民間製薬企業での創薬研究やアメリカ留学を経験してきました。様々な研究のバックグラウンドを発揮して、免疫機構の詳細を明らかにしていきたいと思います。

2022年6月1日付

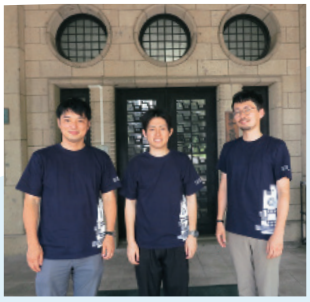
構造生命科学分野
特任講師 加藤 一希

このたび計算物質科学分野の講師に着任致しました。普遍性と多様性という物理学の魅力が詰まった物質は、同時に我々の生活に欠かせない科学技術の基盤でもあります。物質の性質をきちんと理解し、望んだ性質を持つ物質を作り出すという物質科学の大目標に向け、先端研という素晴らしい研究環境のもと邁進していく所存です。

2022年8月1日付

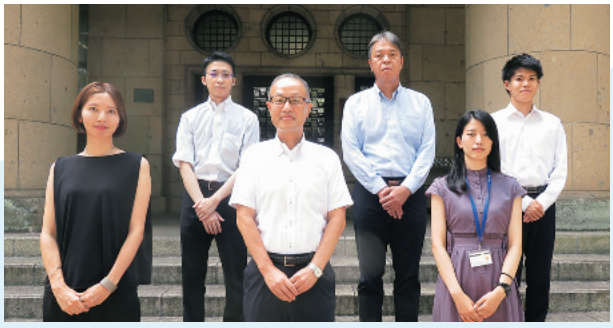
計算物質科学分野
講師 野本 拓也

ADMINISTRATIVE STAFF



経営戦略企画室

[写真左から]
産学官連携協力員（熊本県派遣）
和田 大志
産学官連携協力員（石川県派遣）
松田 稜平
産学官連携協力員（和歌山県派遣）
〆木 貴之



事務部

[写真左から]
企画調整チーム 企画調整担当 一般職員 岡部 明奈
企画調整チーム 人事給与担当 一般職員 加藤 良隆
事務長 竹元 龍太
財務チーム 執行担当 上席係長 川﨑 伸一
企画調整チーム 人事給与担当 一般職員 渡邉 輝夜
企画調整チーム 人事給与担当 一般職員 田地川 蒼太

人事情報 HR

採用・任命・転入等

発令日	氏名	職名	受入研究室
2022年4月1日	有田　亮太郎	教授	有田研究室
2022年4月1日	河野　龍興	教授	河野研究室
2022年4月1日	近藤　武夫	教授	近藤武夫研究室
2022年4月1日	角野　浩史	教授	角野研究室
2022年4月1日	平尾　雅彦	教授	平尾研究室
2022年4月1日	森　章	教授	森研究室
2022年4月1日	土橋　久	特任教授	経営戦略企画室
2022年4月1日	春日　郁朗	准教授	小泉研究室
2022年4月1日	米代　武司	准教授	酒井研究室
2022年4月1日	熊谷　啓	特任准教授	杉山研究室
2022年4月1日	髙橋　麻衣子	特任講師	近藤武夫研究室
2022年4月1日	野本　拓也	助教	有田研究室
2022年4月1日	赤松　裕美	特任助教	近藤武夫研究室
2022年4月1日	荒井　誠	特任助教	酒井研究室
2022年4月1日	岡本　真由美	特任助教	酒井研究室
2022年4月1日	齊藤　寛人	特任助教	稲見研究室
2022年4月1日	辻田　匡葵	特任助教	熊谷研究室
2022年4月1日	堀江　新	特任助教	稲見研究室
2022年4月1日	宮本　歩	特任助教	中村尚研究室
2022年4月1日	井村　直人	特任研究員	西成研究室
2022年4月1日	鵜川　昌士	特任研究員	太田研究室
2022年4月1日	衛藤　翔太郎	特任研究員	炎症疾患制御分野
2022年4月1日	田中　克大	特任研究員	有田研究室
2022年4月1日	戸田　賢希	特任研究員	小坂研究室
2022年4月1日	中邑　賢龍	特任研究員	近藤武夫研究室
2022年4月1日	日比野　沙奈	特任研究員	炎症疾患制御分野
2022年4月1日	村山　育子	特任研究員	中村尚研究室
2022年4月1日	渡部　一郎	特任研究員	小泉研究室
2022年4月1日	LAFUENTE SAMPIETRO Alban	特任研究員	岡田研究室
2022年4月1日	竹元　龍太	事務長	事務部
2022年4月1日	田村　啓子	上席係長	企画調整チーム企画調整担当
2022年4月1日	武内　東子	上席係長	企画調整チーム教育研究支援担当
2022年4月1日	川崎　伸一	上席係長	財務チーム執行担当
2022年4月1日	山本　総光	主任	財務チーム予算･決算担当
2022年4月1日	岡部　明奈	一般職員	企画調整チーム企画調整担当
2022年4月1日	加藤　良隆	一般職員	企画調整チーム人事給与担当
2022年4月1日	渡邉　輝夜	一般職員	企画調整チーム人事給与担当
2022年4月1日	田地川　蒼太	一般職員	企画調整チーム人事給与担当
2022年4月1日	村上　恵	特任専門職員	企画調整チーム人事給与担当
2022年4月1日	高野　稔	特任専門職員	企画調整チーム教育研究支援担当
2022年4月1日	高野　米孝	特任専門職員	財務チーム外部資金担当
2022年4月1日	伊世　知代	学術専門職員	太田研究室
2022年4月1日	桐浴　裕巳	学術専門職員	太田研究室
2022年4月1日	森　有加	学術専門職員	太田研究室
2022年5月1日	渡邉　光	特任助教	有田研究室
2022年5月1日	安田　裕紀	特任研究員	角野研究室
2022年5月1日	田沼　利浩	学術専門職員	近藤武夫研究室
2022年5月16日	古賀　千絵	特任助教	小泉研究室
2022年6月1日	井形　彬	特任講師	玉井研究室
2022年6月1日	加藤　一希	特任講師	西増研究室
2022年6月1日	白木　朋子	特任専門職員	広報･情報室
2022年6月16日	Vengayil Krishnan Vishnu	特任研究員	近藤高志研究室
2022年7月1日	日比谷　由紀	助教	角野研究室
2022年7月1日	中島　由希	特任研究員	炎症疾患制御分野
2022年7月1日	中村　江利子	特任専門職員	広報･情報室
2022年8月1日	野本　拓也	講師	有田研究室
2022年8月1日	岡島　悟	助教	中村尚研究室
2022年8月1日	五月女　真人	助教	近藤高志研究室
2022年8月1日	HAUPT STEPHAN SHUICHI	助教	神崎研究室
2022年8月1日	祐川　侑司	特任助教	神崎研究室
2022年8月1日	村田　裕樹	特任助教	西成研究室
2022年8月1日	小林　勇太	特任研究員	森研究室

退職・転出

発令日	氏名	職名	転出先
2022年3月31日	岡本　晃充	教授	東大大学院工学系研究科 教授
2022年3月31日	中村　泰信	教授	東大大学院工学系研究科 教授
2022年3月31日	宇佐見　康二	准教授	日亜化学工業株式会社･主任研究員
2022年3月31日	桝田　祥子	准教授	東大先端研 特任准教授(非常勤)
2022年3月31日	松村　欣宏	准教授	東北大学大学院医学系研究科 准教授/東大先端研 客員研究員
2022年3月31日	山口　哲志	准教授	東大大学院工学系研究科 准教授
2022年3月31日	河原崎　和歌子	特任准教授	東大先端研 特任准教授(非常勤)
2022年3月31日	檜山　敦	特任准教授	一橋大学 教授/東大先端研 特任教授(非常勤)
2022年3月31日	橋本　崇史	講師	東大大学院工学系研究科 附属水環境工学研究センター 准教授
2022年3月31日	宮下　直也	特任講師	電気通信大学 准教授
2022年3月31日	吉田　成朗	特任講師	OMRON SINIC X Corporation Senior Researcher 東大先端研 特任講師(非常勤)
2022年3月31日	松浦　康平	助教	東大大学院工学系研究科 助教
2022年3月31日	鮎澤　信宏	特任助教	杏林大学 助教
2022年3月31日	大沼　悠一	特任助教	株式会社ALBERT データサイエンティスト
2022年3月31日	杉山　太香典	特任助教	富士通株式会社 研究員
2022年3月31日	久保田　隆	特任助教	帝京大学 助教
2022年3月31日	脇坂　崇平	特任助教	慶応義塾大学 特任助教
2022年3月31日	梅本　大輔	特任研究員	都市再生機構 主査
2022年3月31日	杉浦　洋平	特任研究員	
2022年3月31日	増井　周造	特任研究員	日本学術振興会 特別研究員(PD)
2022年3月31日	Balandra Antelis Alfonso	特任研究員	
2022年3月31日	VAN LOO ARJAN FERDINAND	特任研究員	東大大学院工学系研究科 特任研究員
2022年3月31日	XIAO YUN	特任研究員	
2022年3月31日	宮﨑　敏朗	事務長	東大経済学研究科等 事務長
2022年3月31日	和栗　正幸	係長	東大教養学部等総務課教室事務チーム 上席係長
2022年3月31日	三浦　真奈	係長	東大工学系･情報理工学系等国際推進課 留学生支援チーム 係長
2022年3月31日	吉沢 知浩	係長	東大本部法務課法規チーム 係長
2022年3月31日	高橋 実希	一般職員	東大本部人事企画課付 一般職員 (日本学術振興会国際学術交流研修派遣)
2022年3月31日	森　晶子	特任専門員	東大先端研 特任研究員(非常勤)
2022年3月31日	堀　薫	特任専門職員	

2022年3月31日	毛利　美都代	特任専門職員	東大大学院工学系研究科 特任専門職員
2022年3月31日	門目　紀子	学術専門職員	
2022年3月31日	加納　真人	学術専門職員	
2022年3月31日	合田　有希	学術専門職員	北里大学大学院 修士課程
2022年3月31日	清水　学	学術専門職員	
2022年3月31日	山田　東子	学術専門職員	
2022年5月31日	足立　美都子	主事員	
2022年5月31日	田沼　利浩	学術専門職員	
2022年6月30日	古藤　桂子	主事員	
2022年7月31日	野村　政宏	准教授	東大生産技術研究所 教授

活動報告 REPORT

［プレスリリース］ https://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/pressrelease/

2022年7月21日

反強磁性体における垂直2値状態の電流制御に成功
～不揮発性メモリの超高速化・超低消費電力化への大きな一歩～
有田 亮太郎 教授、野本 拓也 講師（計算物質科学分野）

2022年7月12日

変換効率26.2%のペロブスカイト/CIGSタンデム太陽電池を実現
別所 毅隆 特任講師（附属産学連携新エネルギー研究施設）
瀬川 浩司 教授（エネルギー環境分野）

2022年6月30日

細胞内における相分離の基礎的なメカニズムを解明
田中 肇 シニアプログラムアドバイザー（高機能材料分野）

2022年6月30日

Dicer-2-R2D2タンパク質複合体が二本鎖siRNAの非対称性を感知するしくみ
～RNA干渉における20年来の謎を解明～
西増 弘志 教授（構造生命科学分野）

2022年6月27日

バーチャルリアリティにおいて「第3・4の腕」の身体化に成功
荒井 謙さん、齊藤 寛人 特任助教、稲見 昌彦 教授（身体情報学分野）

2022年6月7日

アモルファス物質の低温物性異常の起源を解明
田中 肇 シニアプログラムアドバイザー（高機能材料分野）

2022年5月28日

コンビニエントなRNA制御ツールCRISPR-Cas7-11の構造解明！
加藤 一希 特任講師、岡崎 早恵 学術専門職員、西増 弘志 教授（構造生命科学分野）

2022年5月26日

植物の多様性はいかにして維持されているのか　～植物の多様性を制御する要因が緯度と共に変化することを発見～
西澤 啓太 特任研究員、森 章 教授（生物多様性・生態系サービス分野）

2022年5月26日

新型コロナウイルスの超高感度・全自動迅速検出装置の開発　～汎用的な感染症診断装置としての社会実装に期待～
西増 弘志 教授（構造生命科学分野）

2022年5月13日

人はどのように混雑を感じるのか？　～歩く速さにおける理想と現実のギャップ～
カ ギョウロ 特任助教、フェリシャーニ クラウディオ 特任准教授、
柳澤 大地 准教授、西成 活裕 教授（数理創発システム分野）

2022年4月28日

広帯域トポロジカル光導波路を実現する手法を発見　～光回路技術の新たな可能性を拓く～
刘 天際 特任助教（研究当時）、岩本 敏 教授（極小デバイス理工学分野）

2022年4月13日

溶液の酸性度で、ナノ粒子の凝集構造が変化　～複雑な「電荷調整」の影響をシミュレーションで解明～
ユアン ジャーシン 特任研究員、田中 肇 シニアプログラムアドバイザー（高機能材料分野）

2022年3月31日

精密分子設計による高感度MRI分子プローブの開発　～早期診断に向けたがん関連酵素活性の生体内リアルタイム計測～
斉藤 圭亮 准教授、石北 央 教授（理論化学分野）

2022年3月30日

障がい児の学習・生活支援のためのICT活用事例報告書を発行　～「魔法のプロジェクト2021 ～魔法のMeasure～」の協力団体の実践研究事例を公開～
ソフトバンク株式会社と東京大学先端科学技術研究センターが進める実証研究プロジェクト

［研究成果］

2022年7月27日

コロイド量子ドット太陽電池を用いた波長分割3接合太陽電池で30%超の変換効率を実現
久保 貴哉 特任教授（附属産学連携新エネルギー研究施設）
岡田 至崇 教授（新エネルギー分野）
瀬川 浩司 教授（エネルギー環境分野）

2022年7月5日

栄養飢餓耐性のがん細胞においてグルタミンがリボソームRNA合成の鍵となることを発見
大澤 毅 特任准教授（ニュートリオミクス・腫瘍学分野）

2022年7月1日

エポキシ樹脂の硬化率における特徴的な物性の変化を解明
山下 雄史 特任准教授（ニュートリオミクス・腫瘍学分野）

2022年6月7日

ダンスで高齢者の認知機能を効果的に改善　～コロナ禍でも自宅で認知機能を向上させるダンスプログラムを開発～
檜山 敦 特任教授、宮﨑 敦子 特任研究員（身体情報学分野）

2022年5月18日

知床の森を復活させる効果的な植林方法の検証
小林 勇太 特任研究員、森 章 教授（生物多様性・生態系サービス分野）

新　刊 BOOK

ロシア点描　まちかどから見るプーチン帝国の素顔

小泉 悠 講師／PHP研究所／2022.4.18

過去を知り、今を理解し、未来へ

大学時代はボウリング部に所属し、最高スコアは２９０。「刻々と変わるレーンの状況にあわせて投げる軌道を考える所が楽しかったです」

おかじま さとる
岡島 悟 さん　中村研究室（気候変動科学分野）助教

兵庫県出身。2008年東京大学教養学部理科一類入学、2012年卒業。2014年東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻修士課程修了、2020年3月同博士課程修了。博士（理学）。東京大学先端科学技術研究センター特任研究員、同特任助教等を経て2022年8月より現職。

14歳で気象予報士資格を取得。「物理や数学などの内容は一部大学レベルであるものの、必要な部分だけ勉強し、中学1年生の時に半年間の講習会に通い、ひたすら天気図に親しんで触れていました」。当時、最年少の気象予報士資格取得者として取材を受け、テレビ番組制作の様子を見学する機会があった。テレビで活躍する気象予報士ではなく研究者を目指したのは、気象・気候の現象を深く理解する研究職が自分に合っていると思ったからだ。

「小学生の頃は、ラジオの天気予報を聞いて、天気図を描いたり、新聞の天気図を切り抜いて集めたりしていました。天気図は、現実に起こっている現象を一つの図の中で理解できる所が面白いです。鉄道好きなかたが時刻表を眺めるのが好きなのと一緒で、自分の手の中にある情報を集約し、ストーリーを完結させることができる。こんな天気図があったらいいな…と想像して作ることもありました」

現在所属している研究室は、科学技術振興機構（JST）の「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」共創分野（本格型）のプロジェクトに採択された。プロジェクトが掲げる「地域気象データと先端学術による戦略的社会共創拠点（ClimCORE）」として、気候変動、異常気象を読み解き、学術がけん引する共創社会を目指して戦略的研究が進んでいる。

岡島助教は日本をはじめとする中緯度地域にある移動性高低気圧の活動について研究している。それらの活動は日々の天気の変化をもたらしているが、特に季節によってどのように変化するかに注目している。「過去の気象データや将来の予測シミュレーションデータの解析により、物理的に理解できる特徴やパターンを取り出します。それによって気温、風、気圧、湿度などの様々な気象要素の変化を説明できます。季節性や変動のパターンは地域によっても異なるので、日本などを含む地図上に図を描き、空間的な分布にも着目しています」

気象が人体へ与える影響についても興味を持っている。「生命科学分野と共同研究を行うことで、気象の予測モデルを疾病や感染症の予測モデルにもっと活かせるかもしれません。将来は、気象と生命の関連性を新しい観点から解き明かしたいです。分野横断的な研究を行えるのは、先端研ならではの特徴です」

気象は一般の人々にとって身近であるからこそ、気候変動などについて物理的に理解可能な正しい情報を提供することを目指している。「過去を知り、今を理解し、未来へつなげたい」という思いが、次の世代に向けた教育活動を行う原動力だ。気象の全地球データを立体的に可視化したペーパークラフトを使ってイベントも行った。

家では料理担当で、野菜の作り置きやシチュー、煮物などが得意料理だという。「気分転換は、鉄道好きで製薬会社の研究者である妻と情報や意見を交換することです。製薬など他分野についていろいろ知ることができて高め合えるのは幸せです」。夫婦の談議は続くよ、どこまでも…。

広報委員より

広報委員　稲見 昌彦 教授
（身体情報学分野）

116号で中村尚先生より広報委員長のご指名を頂いたものの、事情によりもう一年中村先生に続投をお願いし、まずは委員として広報・情報室をお手伝いさせて頂くことになりました。よろしくお願いいたします。

さて、3年ぶりの開催となった対面での駒場リサーチキャンパス公開、感染対策とキャンパスの活気を両立するためにご協力いただいた方々に、改めて御礼申し上げます。私も来場者の方々と笑顔でかわす議論に大変勇気づけられました。

そして2回目になる高野山会議が開催されました。千二百年前の最先端の英知が引き継がれる場で、先端研と高野山とが今後の千二百年を見据えた議論を続けることが高野山宣言として表明されました。このような取り組みを通し、未来から振り返ったときの新たな伝統を生み続ける、そんな先端研でありたいと願っています。

先端研ニュース 2022 Vol.2 通巻117号 発行日：2022年10月7日　ISSN 1880-540X

© 東京大学先端科学技術研究センター
転載希望のお問い合わせ
press@rcast.u-tokyo.ac.jp

発　行　所：東京大学先端科学技術研究センター　〒153-8904 東京都目黒区駒場 4-6-1　https://www.rcast.u-tokyo.ac.jp
編　　集：中村尚（広報委員長）、稲見昌彦（広報委員）、白木朋子、杉本喜乃、中村江利子、村山育子
印　　刷：能登印刷株式会社　　DTP：株式会社キャッチエム

この冊子は植物インキを使用しています。